

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経済学Ⅲ		(TGB213)
講義名 (コード)	TGB_経済学Ⅲ		(TGB213)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	忍足 祐之	時間数	30
成績評価教員	忍足 祐之	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	本授業は、経済社会、特に経済現象について、理論を通して、理解することが目標である。とくに、マクロ経済の仕組みを通して、経済発展構造をつかみ、それに関わる経済政策を学ぶ。
全体の内容と概要	講義をしつつ、ディスカッション、質疑応答、いろいろな具体例を挙げながら進める。
授業時間外の学修	各国の経済状況、特に、日本とクラスの国のGDP、その国の主要産業について勉強しておく。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	マクロ経済学のあらましを理解する	1 政府の市場への介入 2 経済学の構成（ミクロとマクロ） 3 古典派とケインズ（ケインズ派）
2	マクロ経済学のあらまし理解する	5 政府の財源（最近の日本のケース） 6 政府活動の支出（最近の日本のケース）
3	マクロ経済学のモデルを理解する	1 誰がどのようなものを取引するのか？ 2 マクロ経済学の舞台（マクロ・モデル）
4	国民所得とは何か？ どうやって計測されるの？を理解する	1 国民所得とは？ 2 三面等価の原則 * GDPとGNP、中身とそれぞれの違い
5	経済の波及効果について計算できる	1 無限等比級数の和 2 無限等比級数と波及効果
6	財市場分析（45度線分析）理解①	1 「限界」という見方 2 フローとストック 3 名目と実質 4 インフレとデフレ
7	財市場分析（45度線分析）理解①	5 90年代後半からの貿易の変化 6 円高と円安 7 どうして円高になるのか？
8	財市場分析（45度線分析）理解②	1 消費関数(C) 2 貯蓄関数(S) 3 投資関数(I)
9	財市場分析（45度線分析）理解②	4 総需要(YD)と総供給(YS) 5 投資乗数
10	財市場分析（45度線分析）理解③	1 政府支出(G) 2 税金(T)
11	財市場分析（45度線分析）理解③	3 政府支出と減税 4 均衡予算乗数 5 所得の連鎖と乗数
12	財市場分析（45度線分析）理解④	1 輸出(X)と輸入(M) 2 開放マクロ・モデル 3 ISバランス式
13	期末試験対策	これまでのまとめ
14	期末試験	期末試験
15	返却と解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	茂木喜久雄（2019）『絵でわかるマクロ経済学』（講談社）
参考文献・資料等	ニュースリテラシー研究所著（2020）『図解まるわかり時事用語2019-2020』（新星出版社）
備考	